

自動ねじ締めラインに最適

サンコーインダストリー

インタトルク形状の特殊リセス

サンコーインダストリー(株)本社大阪府西区立売堀1-9-28。奥山淑英社長)では、企業原点「お客様の役に立ちたい」の基、取扱いアイテム拡充に努めて顧客ニーズに応じた柔軟対応を図っている。直近では、電動ドライバーによるね

じ締め等で効果が期待できる「マイクロインタトルク小ねじ」および「TRXローヘッドインタトルク」の取扱いを開始。頭部リセスをインタトルク形状にする事でビットとの嵌合向上等の利点を有する。

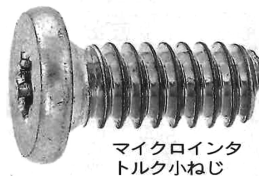
イオスの特許および商標登録技術。ヘキサロビュラ穴の中央部を深くした特殊リセス形状および専用ビットを使用することで、ビットとねじが素早く嵌合。リセス内部にビットを誘導するガイド機能。リセス中心部にビットを誘導するロック機

能。ビットを僅かに回転させると嵌合する等の特長があり、電動ドライバーによるねじ締め、自動ライ等で優れた効果が期待できる。今回、取扱いを開始したのは「マイクロインタトルク小ねじ」および「TRXローヘッド(ア

ンタトルク)の二種類。順次、在庫化を進めている。

「マイクロインタトルク小ねじ」は呼び径M1.4×首下長さL2.56mm、M1.7×L2.56mm。材質はSWCH16 A三価ホワイト。

「TRXローヘッド(インタトルク)」はM2×L3、10mm、M2.5×L4、10mm、M3×L5、12mm、M4×L6、20mm、M5×L8、30mm、M6×L8、30mm。材質はOM430三価ホワイト。三価ブラック。



マイクロインタトルク小ねじ



TRXローヘッド

堀江貴文氏が 東大阪物流センター見学

問合せ等はサンコーインダストリーまで(電話番号06-6339-6364)。



奥山社長(左)と堀江氏(右)

東大阪物流センターに来社して、7階会議室へと移動。奥山社長より歓迎挨拶が述べられたから物流第1部の山口幸三部長より同センターの概要説明。奥山社長と堀江氏の記念撮影が行われた。同センターは1〜4号館で構成され、フロア毎の主な役割は1号館と2号館の1階がトラックヤードおよび引取窓口、2階が荷造の梱包、3階、6階に小箱倉庫、3号館と4号館も一部倉庫機能を有するほか、3号館には自動洗浄や自動メンテナンス、袋詰めエリア、4号館には品質保証の検査機や目視検査場がある。また、バラ出荷専用のロータリーラックおよび袋詰め作業場は4号館より4階の吹き抜け構造となっている。

見学会では、奥山社長と山口部長が各エリアの説明を行いながら堀江氏とともに同センターおよび

サンコーインダストリー(株)のロジスティクス部門核を担う東大阪物流センターにおいて、10月14日に実業家の堀江貴文氏が来社。バラ対応や荷合わせなど、ねじ業界特有の作業風景ならびに同社独自の効率的な物流システムについて見学を行い、関心を示す場面も見られた。

当日は、午前11時に堀江氏ならびに関係者が東

なり命名権を取得。機体名称を「ねじのロケット」と定め今夏打上げ予定だったが、メインエンジンの点火器トラブルにより時期未定の打上げ延期となっている。